

平成28年度 県小教研学習指導改善調査【結果分析】第6学年国語

1 調査結果の分析

(1) 資料選択について(①~④)

ア 資料を読み取る力(①~②)

①の正答率は、82.9%と全ての設問の中で最もよい正答率であった。【資料ア】「村上さんのお話」に書かれた内容をよく読み取ることができていた。この問いは「設備のユニバーサルデザイン」と「心のユニバーサルデザイン」の両方が書かれていて正答であるが、「設備」が書けない誤答が多く見られた。「心」は、【資料ア】から比較的容易に読み取ることができるが、「設備」は最後まで読み取らなければいけない。書かれた内容を把握した上で、「二つのユニバーサルデザイン」をキーワードに的確に読む力が求められる。一方、②の正答率は、72.1%であった。「資料を見ても分からないこと」を問われているが、多くの資料を比較したり、資料のどこに着目するとよいか分かっていなかったりすることからの誤答が見られた。

イ 資料の共通性を読み取る力・・・(③)

正答率は、76.0%であった。③は、【資料カ】や【資料オ】から、共通する事柄を読み取る設問である。誤答の多くは、日かげがないことでどのように困っているかを書いていた。思考ツールを用いて考えを整理する過程で、「資料から分かること」と「自分の意見」が混在していると考えられる。

ウ 論理的に思考する力・・・(④)

④の正答率は、75.1%であった。鈴木さんの発言を「資料」「事実」「考え」の順に並び替える問いである。誤答には、二つの傾向が見られた。一つ目は、「事実」と「考え」の区別ができていないことである。二つ目は、何を問われているのかが分からず、問題の意図がよく理解できていないことである。これらのことから、児童の中には「事実」と「考え」とがしっかりと区別できていないことが考えられる。文末表現に着目させながら「事実」と「考え」に気付かせ、意識して使い分ける等の指導が求められる。

(2) 記述問題について(⑤~⑩)

⑤~⑩は、読み取ったことを基にして、自分の考えを論理的に記述する設問である。指定された文字数に達していないと⑤が誤答、⑥以下がすべて無答となる。

ア 制限時間内に指定された文字数で記述する力・・・(⑤)

正答率は、81.9%であった。昨年度の6年生正答率86.2%と比較するとやや落ちるものの、指定された文字数で記述できるようになってきている。また、無答率は2.5%であり、文章を書こうとする態度も育ってきている。今後は、指定の文字数に達せられなかった児童(誤答率15.6%)や何も書けなかった児童には、構成メモの活用の仕方を教えたり、文章の型を教えたりするなど、書くことの指導方法を充実させる必要があるだろう。

イ 段落を構成する力・・・(⑥)

正答率は、68.5%であった。昨年度6年生の同項目が、75.4%で、昨年と比較するとやや落ちる傾向にあった。段落を構成するに当たり、中1には「市にお願いすること」、中2には「自分たちができること」を書かなくてはならないが、この条件を満たしていないこ

とからの誤答が見られた。また、段落を構成して書くことができない現状がみられ、低学年からの継続した段落指導が求められる。

ウ 資料を適切に選択して記述する力・・・(⑦)

正答率は、69.3%であった。誤答の多くは、自分の考えに合う適切な資料を選択することができなかったことである。また、「資料○にあるように」などの文型を用いて記述できていないことからの誤答もあった。国語以外でも、資料を読み取り、資料から自分の考えをつくったり、資料を用いて説明したりする学習活動を重視していくことが大切である。

エ 資料の注目する数字や言葉を記述する力・・・(⑧)

正答率は、68.4%である。誤答の多くは、自分の意見にかかわる資料から、資料に示されている数値や言葉などの「分かること(事実)」が記述できていないことであった。自分の考えの根拠となるのは、資料のどの数値に当たるのか、どの言葉に当たるのかがつかめず、「事実」と「考え」が児童の中で結びついていないと考えられる。事実を基に自分の考えをもち、意見交換の中で、違う視点からも考えを見直し深めていく学習が必要である。

オ 資料の注目する数字や言葉から解釈したことを記述する力・・・(⑨)

正答率は、64.3%である。資料から分かる事実を踏まえて、考えられることを書く設問である。誤答の多くは、資料についての記述は見られるが、それらを踏まえて自分の考えが書かれていなかったこと、一方の段落だけにしか自分の考えが書かれていなかったことであった。自分の考えが記述できていないことは、昨年度も指摘された点であり、今年度の調査でも同様な点が指摘される。ここに、課題が挙げられるだろう。資料を読み取る、解釈する、考える、記述するという学習活動の一つ一つを大切にしながら、それらを活用する学習の場を意図的に仕組んでいくことが大切である。

カ 解釈したことと自分の意見をつなげる力・・・(⑩)

正答率は、64.6%である。この設問は、「終わり」に「中1, 2」の2つの段落で述べたことと意見を書くものである。「中1, 2」のどちらか一方だけで述べたものしかなかったり、抽象的な意見で終わってしまったりとといった誤答傾向が見られた。

2 今後、重点的に指導してほしい活動

(1) 国語科の学習で

- 様々な資料を読み、読み取ったことから自分の考えをまとめる学習活動を行うこと。
- 「事実」と「考え」に着目しながら説明文を読み取ったり、意見文を書いたりすること。
- 長文を読む機会を増やし、書かれている内容を的確に読み取る力を付けること。

(2) 他教科や総合的な学習の時間で

- 図や表、写真などの非連続型テキストから必要な情報を取り出したり、取り出した情報をもとに自分の意見を作ったりする学習活動を充実させること。
- 様々な思考ツールを活用させながら、児童自身が目的に合わせて思考ツールを選択したり、活用したりして、自分の意見をつくる学習活動を充実させること。